

第32期目録委員会記録 No.16

第16回委員会

日時：2010年9月4日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：原井委員長、東、木下、酒見、鴫田、平田、古川、本多、横山、渡邊
<事務局>磯部

[配付資料]

- 1.入力仕様書 2010（2ページ-A4、木下委員、酒見委員、本多委員）
- 2.[入力仕様書作成にあたって]（2ページ-A4、木下委員、酒見委員、本多委員）
- 3.[入力項目一覧表]（5ページ-A4、木下委員、酒見委員、本多委員）
- 4.全国大会第13分科会 直前メモ（2ページ-A4、渡邊委員）
- 5.『日本目録規則』の改訂に向けて（3ページ-A4、原井委員長）
6. RDA 『英米目録規則』の抜本的改訂（3ページ-A4、古川委員）
7. JLA目録委員会の活動と新しいINCR（6ページ-A4、原井委員長）
8. NCR改訂作業体制（案）（2ページ-A4、原井委員長）
- 9.用語集の作成作業について（報告）（2ページ-A4、鴫田委員）
- 10.用語集（案）（3ページ-A4、鴫田委員）
11. IFLA2010参加報告（5ページ-A4、東委員）
- 12.第32期目録委員会記録 No.14（3ページ-A4、事務局）
- 13.第32期目録委員会記録 No.15（案）（3ページ-A4、事務局）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認

第14回記録（資料12）を確認した。

第15回記録（案）（資料13）について修正を要する箇所が何点か報告された。修正箇所は以下の通り。

- ・配布資料4.内の表記の「事務局」と「酒見委員」の間に「、」を入れる。
- ・検討事項1.の追記部分の「現在」を実際に回答した日付にする。
- ・検討事項9.内の文章「ヨーロッパの目録の出版状況」を「ヨーロッパの目録規則の更新状況」へ修正する。
- ・個人名を議事録内で表記する際の方針として、委員名を除いた個人名は出さないこととする。そのため「配布資料1.」の表記を「排列に関する目録委員会に対する質問」に修正する。同様に「検討事項1. NCR32.3の解釈について」の文章中にある個人名も「目録委員会に対する質問」のように、個人名を用いない表現に変更する。
- ・検討事項10.の文章中にある、細かい条文へのパブコメには「対応しない」という表記を

「個別に回答しない」に修正する。

2. 全国図書館大会の事前準備について

渡邊委員から全国図書館大会目録分科会当日（2010年9月17日）の発表時間や、各委員の役割分担について報告、説明があった（資料4）。資料にもとづき確認を行った。確認事項は以下の通り。

- ・各発表者の発表時間を確認した。
- ・記録文の作成（『図書館雑誌』12月号掲載分、大会記録の冊子掲載分（大会要綱と重複しない内容が求められる）の2種類）が必要となった。どちらも10月末締め切りである。前者（1ページ程度）は渡邊委員、後者（4ページ程度）は原井委員長が担当することとなった。
- ・参加人数は発表者を除いて33名との報告があった。当日参加人数の増減が予想される。

3. IFLA2010の報告

IFLA2010へ参加した東委員から、IFLA2010の内容（特に目録に関連する発表）に対する報告があった。委員会の活動に直接関係する事項として、Anonymous Classicsの日本文学のリストのレビューがあげられる。この件に関して、時期は不明であるが、実際に連絡があれば、国文学研究資料館への相談等も含め対処が必要になる。ISBD統合版の日本語訳を作成する作業は今後検討する。

[検討事項]

4. 「目録の作成と提供に関する調査」について

前回の委員会で、各図書館から回答された調査票に目を通し、今後の集計・分析作業の方向性を検討すること、加えて回答結果をデータ入力する際に必要となる入力仕様書を作成する必要があることを確認した。入力作業自体は外部に委託する。

木下委員から、はじめに入力仕様書の作成にあたって整理しておくべき点（例えば、データ入力を依頼する前に委員会側で行うべき作業）についてまとめたこと（資料2）、次にそれにもとづいて入力仕様書（資料1）を作成したこと、そしてデータの入力作業の際に各項目をどのように入力すべきか（数値を入力する、記入されたとおりに入力する等）についてのリスト（資料3）を作成したことの報告がなされた。作成された資料に対して確認と検討を行った。確認・検討事項は以下の通り。

- ・既に回答期限が過ぎているにもかかわらず、回答が送付されてくる場合がある。その対応策として、ホームページにある回答フォームを9月15日で締め切る。
- ・数値項目における「？」の扱いで、具体的には数値が不明あるいは未定という意味での

「？」と、判別できない数字に対する「？」の区別をどのようにするか。できるだけ数値を入力してもらおうが、どうしても判別できないものには「#」を、回答側がわからないとした回答に対して「？」とするように依頼する。

- ・回答結果に対する再問い合わせ（入力した数値の確認など）をどのようにするか。前回（1997年）の調査では問い合わせは行っていなかった。
- ・調査票をどのような順序でまとめておくか。郵送またはFAXで送られた回答を図書館コード順に並べておくのが便利であるが、この作業は委託することとした。データを入力した結果を、まず郵便とFAXに分け、さらに大学図書館と公共図書館のデータを別ファイルに分けてもらうように依頼する。
- ・これらを踏まえたうえで、委託業者に対して見積もりを依頼する。
- ・メール本文で述べられている回答の扱いをどのようにするか。結論としては、そこまで詳細に見る必要はないと判断した。
- ・今後は回答結果の分析手法等について検討する必要がある。
- ・回答結果をあらかじめ整理した（赤字で訂正した）うえで、データ入力を依頼する必要がある。その準備作業がどのくらいの時間がかかるのか。これについて、次回委員会が行われる前に担当委員（木下委員、酒見委員、本多委員）が実際の回答結果を見ながら準備作業を行うこととなった。

5. 「『日本目録規則』の改訂に向けて」（資料5）の『図書館雑誌』掲載について

『日本目録規則』の改訂作業に関するお知らせの文章を『図書館雑誌』11月号に掲載することとなった。現時点の原稿に関していくつか修正点が指摘された。修正事項は以下の通り。

- ・「6 改訂の主な方針」を「6 NCR改訂の主な内容」に変更する。
- ・「2 将来の目録」内の文章「目録は、資料のもつ潜在的利用可能性を最大限に顕在化する道具であるべきである」の文末を例えば「（略）顕在化する道具であることを再確認したい」と変更する。
- ・「2 将来の目録」文章中の「記述対象の多様化へのきめ細かい対応」を「資料の多様化への対応」に修正する。
- ・日付（全国図書館大会当日の日付）を日本図書館協会目録委員会の上の行に追加する。
- ・「7 今後の進め方」内の文章「改訂方針を固めていくための参考として、多方面からご意見・ご提案等をいただきたい」を「改訂方針を固めていくための参考として、今年末までに多方面からご意見・ご提案等をいただきたい」とする。
- ・委員会のメールアドレスの表記について、迷惑メール防止のために「@」を「 」と表記し、各自「@」に直してもらうことを指示するようにする。

6. 全国図書館大会の発表スライドについて

全国図書館大会で使用される発表スライド（資料6、7）について、それぞれ確認を行った。

7. 全国図書館大会補足資料の作成について

全国図書館大会当日の配布資料として用語集を作成することになり、担当である鴫田委員から用語集作成の作業工程（資料9）と、それにもとづいて作成した用語集（案）（資料10）について説明、報告があった。

8. NCR改訂作業体制の役割分担について（資料8）

原井委員長より、今後行うNCR改訂作業の分担に関する案が出された。現段階での検討内容及び担当は以下の通り。

- ・関連：鴫田委員、渡邊委員
- ・典拠形アクセスポイント：古川委員、横山委員
- ・対象資料の種類：東委員
- ・新規レコード作成に関する規定：高橋委員
- ・エレメント：原井委員長
- ・作業に必要な共有ファイル（ICP用語集、RDAデジタル版等）の準備：平田委員、磯部

次回以降の委員会の予定

10月2日（土）

11月27日（土）